

寺報 佛心

第61号

日輪山 長久寺

【発行所】

岩国市美和町生見八一七
電話 〇八二七（九六）〇九八二
FAX 〇八二七（九六）〇九八二
発行人 三上宗順

秋のお彼岸について

九月二十三日十時よりお彼岸総供養を長久寺で行います。

お彼岸廻りにについて

左記の日程でお参りします。戸が開けばお留守でもお勤めをさせていただきます。ご都合の悪い方はご連絡ください。九月十五日午前 友重・平原

十六日午前 野登路1班

十七日午前 野登路2

十九日午前 市原1班

二十日午前 市原2班

二十一日午前 国木原1班

二十二日午前 国木原2班

地区外の方でご希望の方は、ご連絡下さればお伺いします。

観月茶会



10月5日夕方6時から7

時30分まで、長久寺本堂で、ささやかな催しものですが観月茶会を行いたいと思います。

この時間帯では名月は見られませんが、夕涼み散歩がてら随時お越し下さい。各種催物を企画しておりますので、お抹茶など召し上がりながらお楽しみ頂けたらと思います。たまにはテレビやスマホから離れ、自然の静けさにどっぷりと浸ってみるのも趣向だと思います。ご近所お誘いあわせの上お越しください。

幸せになる方法 その⑮

戦後80年を迎えた今年のお盆は、豊かな今日を振り返り、何が私達を幸せにしてくれるのかを考える機会でもありました。

日露戦争の日本海海戦でロシア兵の遺体が隠岐諸島に流れ着き、島民らはお金を出し合つて弔つた。そのお墓を、先の大戦でシベリア抑留からの帰還兵が、生涯お守りをしたという新聞記事がありました。「祖国に帰りたいという思いは一緒。ここに眠るロシア兵は帰りたいくても帰れない。せめて墓の世話をしたい」と

抑留の愚痴は言われなかったそうです。

仏教では亡くなった人の幸せを「冥福」と言い、それをお墓や仏壇に合掌して願い祈ります。それは故人の幸せが、残されたものの幸せにもつながり、そして自らの死後も幸せでありたいと望むからでしょう。

激戦死闘の後、ロシアの捕虜となり過酷な抑留生活からやつとの思いで帰還できた。しかし安どしながらも、その喜びに浸れないのは何故か。生き残ったことへの自らの苦悩でしょうね。喜びの裏側にあるこの他者を慮つての苦悩こそが、仏教文化が育てた日本人の情緒ではないかと思うのです。この苦悩が他者を弔い冥福を祈らせる。幸せとは何か？分からなくなりますね。

すべての生き物へご慈悲を

早々に梅雨が上がり、7月の中頃の暑い日の午後でした。日陰で庭の草取りをしていると、茶褐色のモフモフした丸っこいアナグマが鼻先を地に付けて出現、しかも4つ、ぞろぞろと。思わず「カワユイ」。スマホをかざして近付きながら、ふと「でも頻繁に出没されて庭を荒らされても困るし……ここに出たら危険と知らせた方がいいのでは……そうだ！一発おどしてやろう」

何だか愉快になって、4頭に向かって「ワーツ」と、大声で近づき、思い切り長くもない足を振りました。

余り高く上がらなかったはずの右足は、そのまま空を切り、その拍子に老体はバランスを失ってでんぐり返り、大地にドスン。

すると4頭は、横たわる

私に「シュー・シュー」と奇声を発して威嚇、やる気十分の臨戦態勢。状況は一変。5〜60cmですが、野生の何とも言えないスゴミに囲まれ「コワッ」。命の危険を感じながらヨタヨタ退り、体を起し立ち上がる。と「こんなにやろう」と死に物狂いで蹴りを連発。はつきりとボディを捕らえた感触も1・2発はあったが、老体が怒り狂ったのほとんど無茶苦茶な攻撃と防御。

我に返ると、何と2頭が戦場に横たわっています。激しい戦闘に息を切らしながら「あー殺っちゃった」。足の甲には重みのある肉の感触が残っている。「ヤバ！、二匹も……」、杉藪に穴を掘って埋めるのはひと仕事。いらんことをした

のーとか思いながら戦場を離れ、鐘樓の縁石で休憩。

ところで人間は本能的に他人を殺すようにはプログラムされてはいない。むしろ社会的な規範や道徳的な判断によって抑制され、他者との協力を重んじるのが人間らしいです。ですから法律や道徳が行動を規制する重要な役割をもつ。宗教もその一つなのでしょう。

仏教では、戒律の第一は「不殺生戒」ですが、第一に置かれる理由は、生命を尊重することが全ての善行の基礎というのです。続く盗まない、嘘をつかない、酒や性欲に溺れない、人を責めない・威張らない・欲張らない・怒らないという戒律は、自分の命・他人の命をしっかり尊重すれば犯すことはないでしょう。

アナグマの弔いを思いながら戦地に戻ると、ナントもぬけのカラ。アナグマは敵に遭遇すると逃げるか死んだふりをする。但し追いつめると威嚇したり襲ってくるらしいです。死んだふりは人間にもある本能で……でもクマには通用しないらしいからご注意を！

ところで全く殺生しない日常生活は有り得ません。私たちの命は他の命を頂いて成立っている。身を守ることも殺生になることも多々ある。他の命を奪わなければ生きていけないのが現実。だからこそ第一不殺生戒なのでしょう。

アナグマへのおどしは明かに虐待！（閻魔様への言いわけ考えとこ）えっ性懲りもなく、しかも殺していたかもしれないのに……。